

浄水器内蔵用シングルシャワー付混合栓  
KM6001(Z)EC2 〈各仕様共通〉

## 施工説明書

## 施工業者様へ

施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。  
この施工説明書と取扱説明書、ユーザー登録カード、浄水カートリッジはつり下げ袋に入れ水栓につるして、必ずご使用になるお客様にお渡しください。

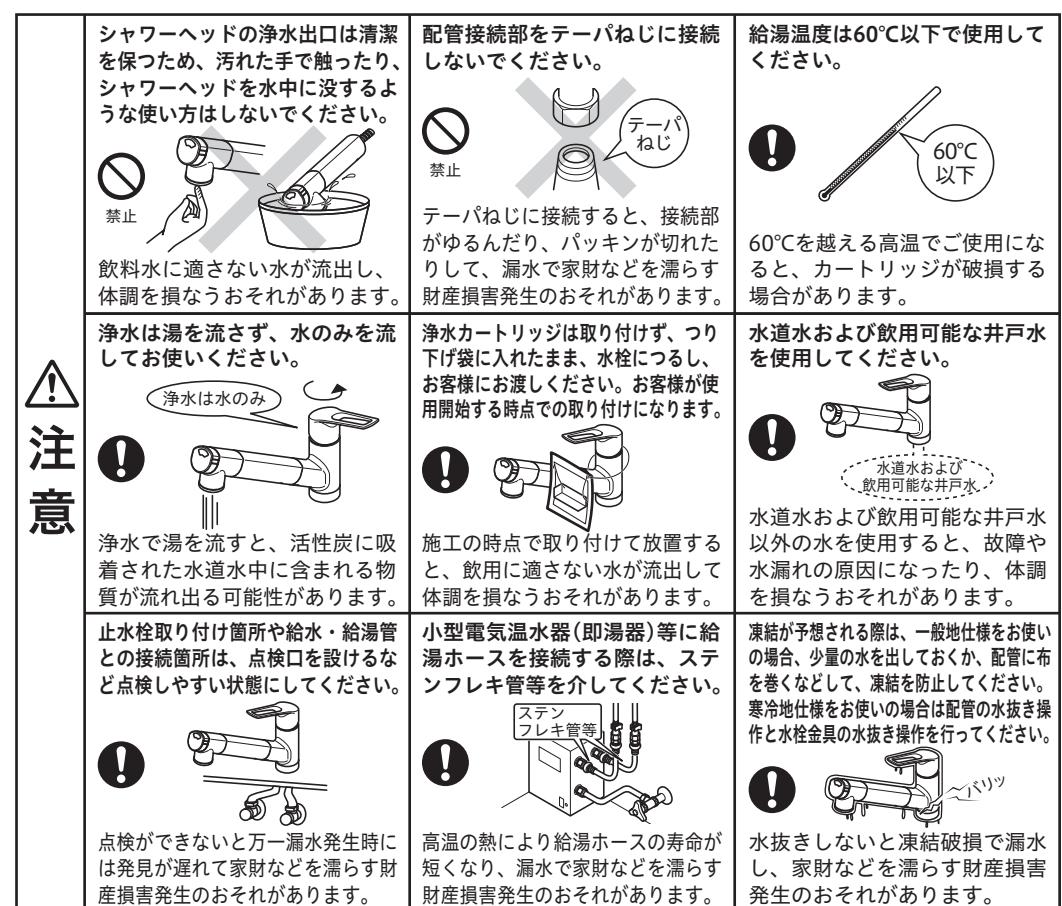
## 安全上のご注意

- ここに示した 警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。  
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です  
 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です



1 ページ



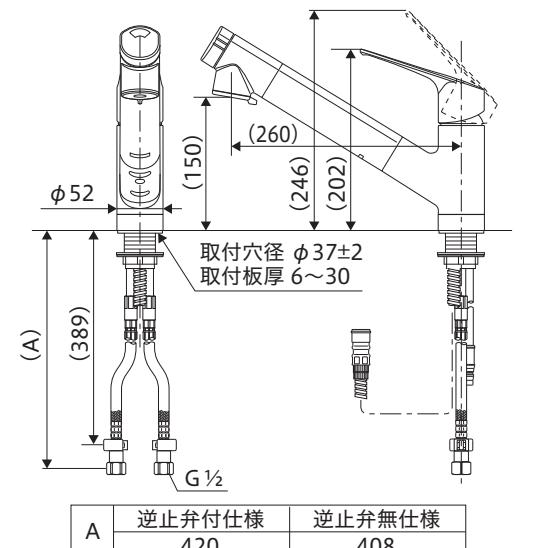
## 取り付け前に

- ① 使用水圧  $A = (\text{給湯器の最低作動水圧}) + (\text{配管圧力損失})$
- (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開)  
(比例制御式) 最低必要水圧:  $A+0.10\text{MPa}$  (動水圧)、最高水圧:  $0.75\text{MPa}$  (静水圧)
- (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ  
(給湯・給水圧力) 最低必要水圧:  $A+70.0\text{kPa}$  (動水圧)、最高水圧:  $0.75\text{MPa}$  (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が $0.3\text{MPa}$ から $0.75\text{MPa}$ までは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が $0.75\text{MPa}$ を超えるときは、市販の減圧弁で、 $0.2\text{MPa}$ 程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため $60^\circ\text{C}$ 以下に設定してください。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

2 ページ

## 取り付け完成図と各部の名称／寸法図／分解図

## 寸法図



## 取り付け手順 2

### 4<sup>1</sup> 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無仕様共、接続方法は同じです。）

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

・接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。

・締め付けトルクの目安は約2000N·cmです。

・締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。

・薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。

・パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

・止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。

・固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】

・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。（A図）

・急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

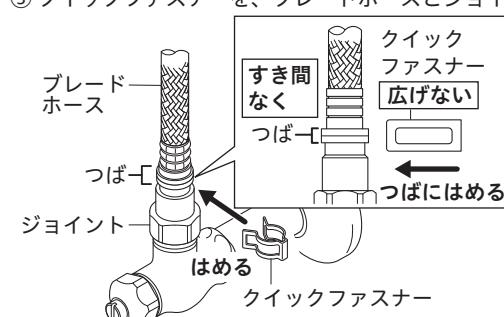
・上下戻り配管はやめてください。（B図）

・ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。

・ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩耗による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

【お願い】 ブレードホースは切断しないでください。

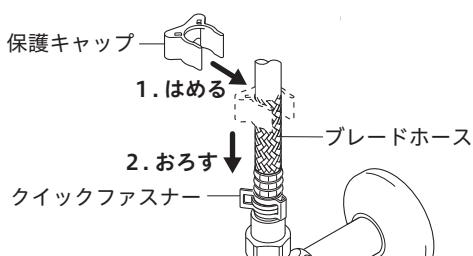
③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



【△注意】  
ブレードホースを上に引っ張って、抜けないことを確認してください。  
しっかりはまってないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。

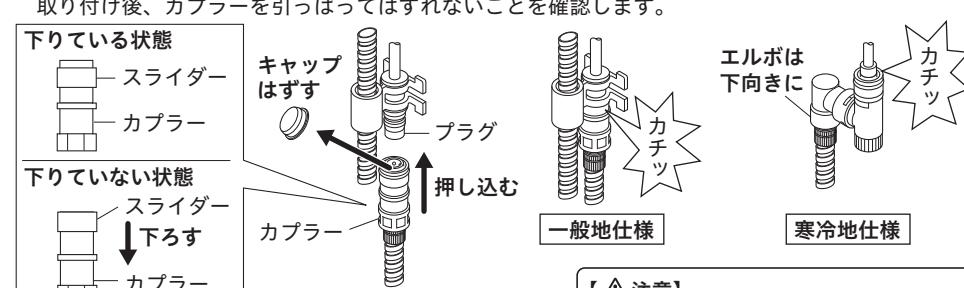
この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。



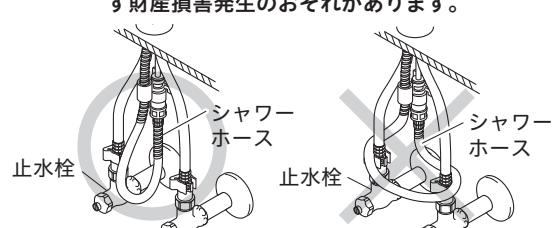
5 ページ

### 5<sup>2</sup> カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグへカチッ音がするまで押し込みます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。）

取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。



【△注意】 シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



【△注意】 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。タンクがある場合

シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。（ホースとの接続の銅管部を少し曲げることにより調節できます。）

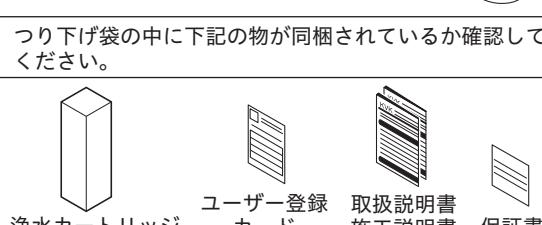
## 浄水カートリッジについて

施工の時点では、シャワーヘッド（握り）に貼っている「ご使用前にカートリッジを取り付けてください」シールは、はがさないでください。お客様が使用開始する時点ではがします。

【△注意】

施工が完了しても、浄水カートリッジは取り付けず、つり下げ袋に入れたまま、水栓につるし、お客様にお渡しください。

お客様が使用開始する時点での取り付けになります。施工の時点で取り付けて放置すると、浄水カートリッジが破損し、飲用に適さない水が流出して体調を損なうおそれがあります。



7 ページ

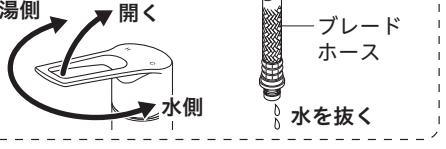
### 4<sup>2</sup> 一度はずしたブレードホースを再接続する場合

・レバーハンドルを全開吐水状態で湯水に振り、湯側・水側それぞれのブレードホース内の水を抜いてください。

・混合位置でレバーハンドルを開いた状態で、「4<sup>1</sup> 止水栓との接続」に従いブレードホースを接続してください。

【△注意】

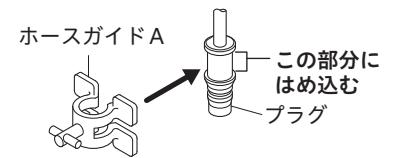
ブレードホース内の水を抜かないで、正しく施工できなかったり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



### 5<sup>1</sup> シャワーホースの接続

① 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。

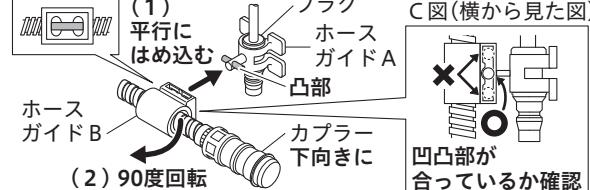
【お願い】 ホースガイドは壁面に固定しないでください。



②(1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様は同梱しています。

(2) (一般地仕様の場合) カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。

(寒冷地仕様の場合) ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースを上から通します。



【△注意】 固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。

B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。

シャワーホースが破損し漏水により家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

【お願い】 ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。

されている場合は合わせてください。（C図）

③ (一般地仕様の場合) カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。

緩んでいる場合はカプラー手締め後、工具で約30度増し締めしてください。

(締め付けトルクの目安は約100N·cm)

(寒冷地仕様の場合) 水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。

水抜き付きカプラー手締め後、工具で約30度増し締めしてください。

(締め付けトルクの目安は約100N·cm)

【△注意】 カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。

漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ

※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない

※シャワーホースはねじらない



【△注意】 シャワーフェイス・ストレーナーにゴミ等がつまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

【お願い】 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

## 取り付け後の点検と清掃

### 通水確認・ゴミ等の流し出し

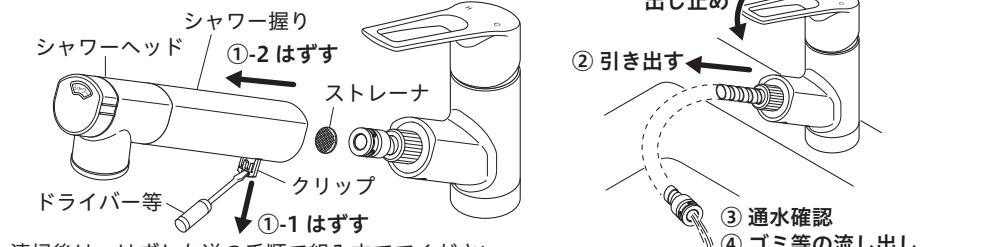
【△注意】 水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から漏水がないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。通水確認は、浄水カートリッジを取り付けない状態で行ってください。浄水カートリッジの性能が落ち、使用できなくなることがあります。

① ドライバー等でクリップをはずしてから、シャワーヘッド（握り）をはずします。

② シャワーホースを引き出し、シンクに置きます。

③ 湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から漏水がないことを確認してください。

④ シャワーホースを持ち、下に向かた状態にして、湯水全開で数分間吐水させ、配管・水栓内のゴミ等を流し出します。



清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

### シャワーフェイス・ストレーナー清掃のお願い

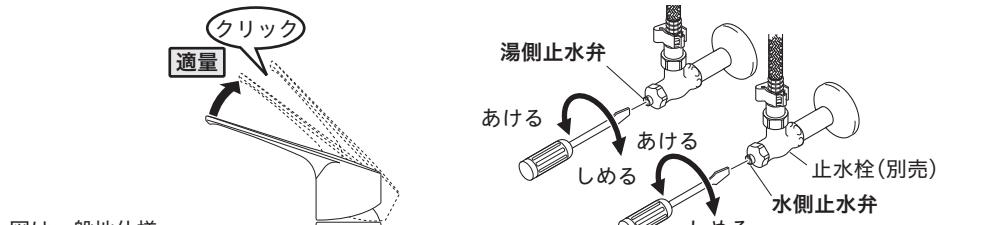
シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナーにゴミ等がつまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

【△注意】 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

### 止水栓による流量の調整方法

止水栓による流量の調節方法は下記の方法で行ってください。

レバーハンドルのクリック手前で適量（湯側・水側それぞれが5L/min程度）になるように止水弁で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。



### 故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

【△注意】 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

【△注意】 修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

・メンテナンスは専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。吐水口やレバーハンドルを持ってはすしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

8 ページ

405373-00